

寒川文書館だより

Vol. 9



牛乳瓶の掛け紙（昭和30年代か）

■ 第9号目次

資料紹介	2
平成22年度のミニ展示／寒川の先人たち	3
町制施行70周年記念事業	4・5
収蔵庫の資料から(6)	6
文書館 最近のできごと	7

第9号
2011.3.31
寒川文書館

<資料紹介> 湘南保証牛乳 牛乳瓶の掛け紙

— 寒川における酪農のあゆみ —

(皆川邦直さん所蔵)

寒川で酪農がはじまったのは、いつごろからのだろうか？

それは、明治末期にまでさかのぼる。

もともと農村では農耕や採肥用として牛馬が飼われていたが、神奈川県下では、副収入を得る目的で、明治末期頃から乳牛の飼育が普及していった。寒川においても、宮山の井出三郎がはじめた井出牧場が、明治37～38年（1904～05）頃には牛乳を高熱処理し小売りしていたという。

ところで、酪農が商売として成り立つためには、牛乳を消費する市場の存在が不可欠である。明治末期から大正期、東京や横浜といった大都市では食生活の西洋化が進展したが、その流れは次第に周辺地域へも波及していった。そうしたなかで牛乳は、高栄養で衛生的な滋養強壮飲料として盛んに宣伝されたのである。

井出牧場は昭和初年、現在の寒川神社参集殿の場所に移転し、その後「湘南保証牛乳株式会社」として発展していった。独自銘柄「湘南保証牛乳」として白牛乳やコーヒーマル牛乳を販売し、一時は平塚市内にまで宅配網を広げていたという。この銘柄は昭和35年（1960）頃まで、会社自体は昭和38年（1963）頃まで存続した。

今回、表紙で紹介したのは、湘南保証牛乳の瓶の口に被せるために作られた「掛け紙」である。色遣いのポップさが目を引くが、掛け紙に書かれた文面をよくみると、「ビタミン・ミネラル添加」「完全均質」「濃厚」が謳われていることがわかる。すべからく無添加をよしとする現代の価値観とは逆の発想が垣間見え、興味深い。

井出牧場を嚆矢とする寒川の酪農は、昭

和期に入ると、ほかの農家へも広がっていった。田端の木内惣四郎は、昭和2年（1927）には牛舎を建築して牛乳の小売りに着手している。昭和10年代には、宮山・田端のほか小動でも乳牛が導入されたことが確認できる。

戦争中は飼料不足や人手不足などの要因で一時廃れたものの、戦後になると品種改良と飼育技術向上にともなって酪農に着手する農家が増え、昭和33年には酪農組合も発足した。昭和9年（1934）の乳牛飼育戸数は4戸、頭数は21頭だったが、昭和25年（1950）には33戸・82頭、さらに昭和40年（1965）には60戸・243頭と戸数のピークを迎える。昭和45年（1970）になると戸数こそ38戸に減少するものの、乳牛頭数は748頭と大幅に増加しており、多頭飼いの急速な普及をうかがわせる。

しかしその後は都市化の進展にともない、臭気の問題など住宅地との共生に苦慮するようになり、減少の一途を辿った。平成17年（2005）時点で、町内において乳牛を飼育する農家は3戸、頭数にして104頭である。

(椿田有希子)



湘南保証牛乳 社員集合写真 (宮山 井出哲夫さん蔵)

平成22年度のミニ展示

寒川文書館では、平成21年度からミニ展示を開始しました。年2回開催する企画展とは別に、公文書館の果たす役割を広く知ってもらったり、タイムリーな話題を提供したりするため、期間を定めて比較的小規模な展示を行うものです。平成22年度も3回の展示を開催することができました。

第4回「アーカイブズの記念日」

＜平成22年6月4日～7月31日＞

「国際アーカイブズの日」に全国の公文書館が展示、講演などのイベントを開催するのに合わせた企画。6月にいくつかある公文書館関連の記念日を紹介するとともに、全国の公文書館の設置状況などをパネルにして、公文書館制度のもつ重要な役割をアピールする内容となりました。



平成22年4月開館の富山市公文書館

第5回「しらべてみよう寒川のこと2」

＜平成22年8月6日～8月31日＞

昨年に引き続き、夏休みの子どもむけの展示を行いました。自由研究等に活用できるよう、浜降祭、町の花・木・鳥、新名物・棒コロッケなど、寒川に関する5つのテーマを提示して、関連資料を紹介しました。テーマの選定や原稿の執筆は、学習院大学大学院の実習生が担当しました。



町の鳥・ダイサギ

第6回「卯年のできごと」

＜平成23年1月5日～2月27日＞

歴史的公文書を身近に感じてもらうための企画です。2011年が卯年であることから、12年おきに寒川のできごとを、公文書や写真を用いて振り返る内容としました。第1回観桜駅伝(1951年)、一之宮愛児園の開園(1963年)、防災無線の設置(1987年)、地域振興券の発行(1999年)などバラエティー豊かな内容となりました。



地域振興券(1999年)

シリーズ 寒川の先人たち

第8回：園芸農業の先駆者—北野與—

寒川の園芸農業の発展に尽力した人です。第7～10代の寒川村長を務めた北野與吉の長男として、明治25年(1892)に生まれた北野與一は、県立平塚農学校(現在の県立平塚農業高等学校)の第2期卒業生で、大正8年(1919)、宮山に20坪の温室を建ててメロンや野菜類の温室栽培を開始し、実績をあげます。同15年7月には(株)寒川農園を設立し、いっそうの事業拡大をはかりました。

(株)寒川農園の「創立趣意書」によると、蔬菜250坪・花卉300坪の温室栽培、種苗の育成、生産品や農具等の販売や仲介を行うほか、技術員養成部を設けて技術の研究・修得をはかることが目的とされていました。会社は昭和18年(1943)12月に解散となりますが、その試みは当時としてはきわめて先進的なものでした。

(林 宏美)



北野與一

町制施行70周年記念事業

昭和15年(1940)11月1日、寒川村が町制を施行し、寒川町が誕生しました。平成22年(2010)はそれからちょうど70年という節目の年でしたので、これを祝うさまざまな事業が開催されました。寒川文書館でも、スライドショー、講演会、企画展示を開催し、また記念誌を発行しました。

町制施行 70 周年記念スライドショー

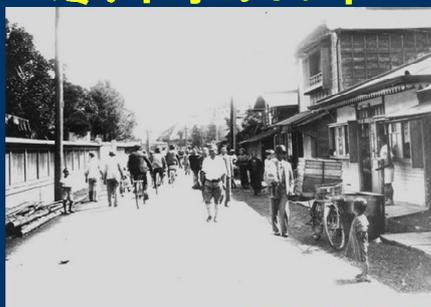
「寒川町の70年」

平成22年11月6日(土) 午前10時～12時

町民センターホール 約350名参加

町制施行70周年記念スライドショー

寒川町の70年



昭和15年10月 一之宮の町並み

70周年記念の寒川町表彰式を彩るイベントとして、スライドショーの上映を行いました。114枚に及ぶプレゼンテーションソフトの画像を作成し、70年間の町の移り変わりを、口頭で解説しました。画像には町の画期になるような公文書を用いるよう心がけ、資料保存の大切さや、公文書館の役割についても、多くの皆さんに知っていただくことができました。

町制施行 70 周年記念 町史講座

「日米開戦と寒川」

平成22年11月6日(土) 午後1時30分～3時30分

町民センター視聴覚室 38名参加



寒川町が発足した昭和15年ごろは、軍需工場が進出し、人口が増加するなど、「都市化」がはじまった時期でした。

寒川町史編集委員・内海孝さんによる講演は、そのころの寒川の様子を、日本や世界の動向もまじえてやさしく解説していただきました。

<第9回企画展>

「寒川町の70年 1940～2010」

平成22年9月5日(日)～平成23年2月27日(日)

文書館展示コーナー

寒川町が発足した頃のように、70年間のできごと、町のシンボルなど、さまざまな角度から寒川町のあゆみを紹介する展示を行いました。町の公文書や町民の皆さんが大切に残してきた資料などをもとに200枚近いパネルを作成したほか、展示ケースには町制施行50周年で作成した記念グッズなどを並べました。展示説明会は3回で24名の参加がありました。



展示のようす



町制施行時の町役場

町制施行 70 周年記念誌

「文人町長と工業市街地化」

平成22年11月1日発行

A4フルカラー 36ページ 価格：500円

文人町長と工業市街地化

— 寒川町制施行70周年記念誌 1940～2010 —



町制施行時の初代町長・広田孝基と、戦後の初代公選町長・真田喜一。2人の共通点は文学者であったことでした。この2人にスポットを当て、当時の町の様子や彼らの人物像を中心に、たくさんの写真、記録、地図などを用いて振り返ります。

<購入方法>

文書館で直接お求めください。

郵送をご希望の方は、次のどちらかの方法で先にご送金ください。着き次第、本と領収書をお送りします。

- ・本の代金と送料を合わせて現金書留で送る。
- ・本の代金分の定額小為替と送料分の切手を封書で送る。

収蔵庫の資料から (6)

文書館の収蔵庫には、皆様から寄贈や寄託していただいた貴重な記録資料や写真をはじめ、寒川の歴史を物語るさまざまな資料を保存しています。今回もその一端をご紹介します。いずれも閲覧できますので、ご希望の方は気軽にカウンターにお申し出ください。

若菜豊家文書



昭和33年(1958)ごろのトマトのラベル。小谷の出荷組合で作成したもので、門沢橋(海老名市)の材木店に作ってもらった木箱に貼ったといいます。企画展「再発見! さむかわの農業」に展示中です。またスイカの出荷シールもあわせてご寄贈いただきました。

中島満三家文書 (寄託)



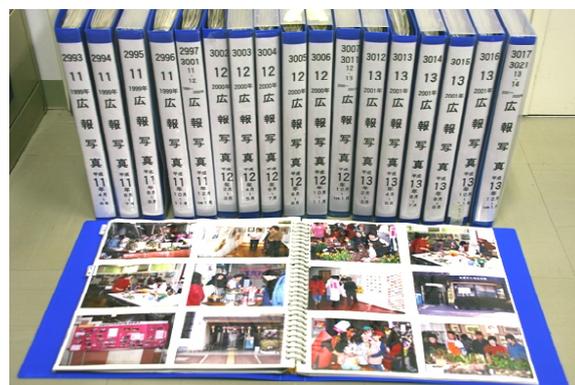
田畑控帳、祝儀・不祝儀帳など多岐にわたっています。写真は宮山にあった牧場の広告で、牛乳の効用について詳細に書かれており、これも企画展「再発見! さむかわの農業」に展示中です。

佐藤孝氏新聞スクラップ (複製)



倉見の佐藤孝さんが長年作成してきた新聞のスクラップブックを複製させていただきました。読売新聞は昭和31年から、神奈川新聞は昭和59年から、それぞれ寒川に関連する記事を切り抜いたもので、その数は約8,000ページに及びます。ボランティアの皆さんのご協力を得て、見出しの目録を作成中です。

広報情報課移管写真



『広報さむかわ』の編集の際に撮影された写真は、昭和40年から平成10年までのアルバム104冊、37,682枚が平成19年度に移管されていましたが、このたび平成11年から13年までの18冊、4,167枚が追加で文書館に納められました。今後、デジタル化を進め、利用の便をはかっていく予定です。

文書館 最近のできごと

■史跡ウォーク 一之宮・宮山地区 11月27日(土)



一之宮不動堂

生涯学習課主催の史跡ウォークに講師として参加しました。今年のコースは、一之宮小学校内の文化財学習センターを起点に、八角広場(旧西寒川駅)、一之宮不動堂、端午橋、西善院、宮山神社など12か所の史跡を、およそ2時間かけてめぐるので、それぞれの地点で歴史的背景などについて解説しました。最後は寒川神社内の方徳資料館を見学し、寒川神社の担当の方に説明していただきました。

■海老名市歴史資料収蔵館を視察 2月3日(木)



神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会の研究会に参加し、海老名市歴史資料収蔵館を視察見学しました。同館は、市史編さん事業において調査・収集してきた膨大な資料を一か所で保存し活用するため、平成22年4月に開館しました。廃止が決まっていた児童館を耐震補強して改築したもので、1階が事務室、閲覧室、会議室、2階が収蔵庫となっています。担当の職員から、市史編さん事業の概要、開設の経緯、今後の課題などについて伺うことができました。

■南小学校児童の施設見学 2月23日(水)



町立南小学校3年生2クラスの皆さんが、図書館・文書館に施設見学に来ました。文書館では、同校の着工前の用地の写真や平成6年(1994)の開校直前の校舎の写真を見せながら、寒川のことを調べる時はまずここへ来てほしいと、文書館の役割について説明しました。今年度は他に、11月11日に寒川小学校、11月18日に小谷小学校、3月4日に一之宮小学校と、合わせて4校の皆さんが、それぞれ施設見学に来ています。

■展示準備ボランティア 3月3日(木)・5日(土)



3月6日から開催する第10回企画展「再発見! さむかわの農業」の準備作業を、ボランティアの皆さんにお手伝いいただきました。3日は、これまでの展示パネルを撤去するとともに、原稿を糊付きパネルに貼り付ける作業を行いました。5日は完成したパネルを壁面にピン針で打ち付ける作業でした。両日も8名ずつの皆さんが集まり、初対面の方も、以前からの顔見知りの方も、和気あいあいと取り組んで下さいました。

今後の事業予定

■開催中の展示のお知らせ

第10回企画展「再発見！さむかわの農業」

寒川では大正時代以降、花、いちご、メロンなどの園芸作物を手がけるなど、先駆的で特色ある農業が行われてきました。こうした先人たちの取り組みや現況などについて、たくさんの写真や資料をパネルにご紹介します。

会期 平成23年3月6日(日)～23年8月31日(水)

■平成23年度の講座・講演会

平成23年度は次の講座等を開催する予定です。日時、会場、申込み方法など、詳しいことは「広報さむかわ」、文書館のホームページ、チラシなどをご覧ください。

○古文書講座（全6回、5～10月の第4土曜日）

○中世史講座（全4回、11～2月）

○町史講座（時期・テーマ未定）

○資料保存活用講演会（時期・テーマ未定）

編集後記

寒川文書館だより第9号をお届けします。

平成23年3月11日、東日本大震災が起きました。被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

寒川町でも震度5強の揺れを観測しました。当館では、町史の在庫を置いていた収蔵庫内の棚1本が折れ曲がるという被害はあったものの、スタッフも収蔵資料も無事でした。ただ、その後も計画停電の対応など、慌ただしい年度末を迎えています。

寒川町では防災安全課をはじめ各課でさまざまな対応を行っていますが、もし次に大きな災害が起きたときに備えて、それぞれの業務の参考のためにも、町民への説明責任のためにも、これらの活動を記した公文書を残していくことが必要です。これこそが公文書館の役割であり、当館の責務として対応してまいりたいと思います。

ホームページもごらんください

ホームページでは文書館からのお知らせ、所蔵資料のご案内のほか、さまざまなコンテンツをご提供しています。ぜひいちどアクセスしてみてください。

ホームページアドレスは右の通りです。

利用案内

■開館時間

火曜～金曜日 午前9時～午後7時

土・日・祝日 午前9時～午後5時

***計画停電等により変更になることがあります。**

詳しくはホームページをご覧ください。

■休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)

年末年始(12月29日～1月3日)

特別整理日(平成23年度は6月7日～11日)

■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分

寒川町コミュニティバス 図書館文書館前下車 徒歩1分

※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第9号

平成23年3月31日

編集・発行／寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

電子メール bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp